『基礎教育保障学研究（The Journal of the JASBEL)』原稿執筆要項（2026年10月改定）

1. 原稿執筆については、以下のとおりとする。

(1) 表題及び本文の使用言語は、原則として日本語とする。

(2) 原則としてすべての投稿原稿には、表題、著者名、所属を加えて、学術論文については本文の日本語による要約（400 字以内）で作成し、別添で提出する。なお、査読を行う学術論文に関しては、投稿時は著者名、所属は記載しない。

(3) 掲載が決定した学術論文には、上記（2）の他に英文「タイトル」「名前・所属」「キーワード（5 語以内、アルファベット順)」、「英文要旨（300語以内)」の作成を別途依頼する。

(4) 原稿はすべて A４判で横書きとする。

①1 ページの文字設定を「40 字×36 行の 1 段組」（＝1,440 字）とする。

②ワード形式のファイルで作成する。

③余白の設定は「上 35mm、下左右 30mm」とする。

④フォント、書式、章、節、図表タイトルについては、**「投稿原稿用Wordファイル書式」（学会ウェブサイトに掲載）**にしたがって示す。

⑤本文中に「注」を用いる場合は、その箇所の右肩に通し番号を記し、本文の最後にまとめて記載する。引用文献と注の両方を活用する場合には注の一覧を先に、引用文献一覧を後にまとめて記載する。**なお、編集上の理由から、Microsoft Word 自動脚注機能は使用不可とする。**

(5) 文体は原則として「である調」とし、常用漢字、新仮名づかいを用いる。英数字（アラビア数字）は半角文字を用いる。ただし、注における（ ）内の数字は全角とする。

(6) 年次については西暦年次を使用することが望ましい。元号を使用する場合には西暦年次を併記して「令和〇〇年（２０〇〇年)」または「２０〇〇年（令和〇〇年)」等と記載することが望ましい。

(7) 文献や注にインターネット上の URL を記載する場合は、最終アクセスした年月日を明示する。

(8) 図（写真を含む)・表は挿入箇所を本文中に示し、別添で一式を提出すること。その際、画像データではなく、編集可能な元データ（Excel・Word 等）のデータファイルを提出すること。

2. 投稿の際に添付する原稿送り状は、基礎教育保障学会のウェブサイトから所定の書式をダウンロードし、利用することを推奨する。所定の様式を使用しない場合も、原稿送り状に明記すべき事項を必ず記載すること。

3. 原稿（図・表の別ファイルを含む）は、Microsoft Word 等のデータファイルとし、原稿送り状とともに、編集委員会事務局までメール添付で送信する。送信時の件名は「基礎教育保障学研究・投稿（著者名)」とする。

4. 原則として、原稿の章の見出し番号はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、節の見出し番号は、１、２、３、とし、項の見出し番号は、１)、２)、３)、とする。

5. 句点は「。」、読点は「、」とし、１文字分を占めることとする。

6. 原稿送付前に表記のゆれがないことを確認する。例えば、「一つ」「ひとつ」、「従って」「したがって」 をどちらかに統一する。

7. 文献引用については、以下のとおりとする。

⑴ 本文中の文献引用は、著者名（発表年）または文末に（著者名発表年）と記入する。ページ数を表記するこ

とが必要な場合には、著者名（発表年ページ数）または（著者名発表年ページ数）とする。

【直接引用】　（例）「…である」（田中 2006, p.14）と定義される。田中（2006）は、「…である」（p.14）と定義している。

【間接引用】（例）Robinson(2000)によれば、次のようなモデルが検証されている。○○に影響を及ぼすという研究がある（小林 2012）。

⑵　連名の場合は著者の間を・で区別し、３名以上の著者の場合は、筆頭者のあとに「ほか」もしくは 「ら」と記載し、それ以下の著者名は省略する。欧文表記の場合、3 名以上の場合は筆頭著者のみ挙げて et al.とする。文献は引用文献一覧として論文の末尾に記載する。

8. 引用文献一覧の配列順序は、和文献と洋文献を区別せず、筆頭著者の姓のアルファベット順に配列する。下記の様式に従い記載する。なお連名の場合、著者の間に・を入れ、全ての著者名を記載する。なお、洋文献の場合、APA（The American Psychological Association）スタイルに準拠することも可とする。

【単行本の場合】　（例）山田太郎(2008)『基礎教育保障の歴史』教育科学出版。

【単行本中の分担執筆論文の場合】　（例）山田太郎(2008)「基礎教育保障と人間発達過程」鈴木花子・田中次郎編『日本における基礎教育保障研究の発展過程』教育科学出版、pp.129-156.

【雑誌の場合】

（例）山田太郎・鈴木花子（2008）「環境保全活動における参加者の環境に関する知識の変化」『基礎教育保障学』34, pp.129-138.

欧文の参考文献の場合、単行本や雑誌の名称はイタリック体とする。

（例）Gee, J. P. (1989) Literacy, discourse, and linguistics: Introduction. *Journal of Education*, 171(1), pp.5-17.

9. 同一年に同一著者の複数文献からの引用があった場合、著者名、年のあとに、a、b、c を入れる。

10. 英文表示の著者名は、下記のように姓を先に記載し、コンマをつけファーストネーム等と区別すること。

（例）Yamada, T. and Suzuki, H.(2008) Developmental Process of Basic Education Study in Japan, *Basic Education,*2(2), pp.8-21.

11. 日本語、英語以外の文献については、必要に応じて原語表記に括弧書きで日本語訳、英語訳を付す。

12. 巻・号のある雑誌で通巻ページの場合、号数は省略する。毎号ページが変わる場合には号数を（ ）に入れ、例えば、「2 (2) 」のように巻（号）を記載する。

13. 論文を引用文献一覧に「印刷中」として示すためには、その論文がすでに受理されていなくてはならない。その場合、当該論文の複写と、受理のレターを投稿論文送付とともに PDFファイルで添付する。

2017年2月19日理事会承認

附則 この改定は、2018年9月2日より適用する（第３号より）。

附則 この改定は、2021年11月21日より適用する（第6号より）。

附則 この改定は、2026年10月23日より適用する（第11号より）